

III 開発教育指導者研修（実践編）第2回

■ 開催概要

- ◆ 日時：2016年7月9日（土）13:00～17:07、10（日）10:00～15:06
- ◆ 場所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者41名、JICA6名、NIED5名、オブザーブ1名 合計53名
[2日目] 受講者41名、JICA3名、NIED5名、オブザーブ4名 合計53名
- ◆ ファシリテーター：（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第2回のねらい

★ 開発教育・国際理解教育にできること

- ① 開発教育・国際理解教育が扱う5つの柱について理解する。
- ② 「多様性」「同一性」「わたし・あなた・みんなのつながり」についての学び方を習得する。
- ③ 課題を共に越えるために必要なスキルとスキルビルディングについて学ぶ。

■ プログラムの内容

● セッション1「はじめに」 7/9 13:00-14:06

1. 主催者挨拶 13:00-[05]

- ◇ JICA 中部 倉坪職員が開会を宣言し、研修に参加する受講者への期待を伝えた。

2. 第2回のねらいの確認 13:05-[04]

- ◇ 第1回のねらいと内容をふりかえり、第2回のねらいと開発教育・国際理解教育が扱う5つの柱についてファシリテーターが説明し、確認した。

＜開発教育・国際理解教育が扱う5つの柱＞

- 1) 多様な国、多様な人と肯定的に出会う
- 2) 多様性と同一性を理解する
- 3) 自分、地域、世界、未来のつながりを理解する
- 4) 人類共通の課題について、共に考え共に越える
- 5) 自己肯定感、コミュニケーション能力、多様性受容力、参加協力の力、合意形成・対立解決などの力（スキル）を育てる

3. アイスブレイキング ～カクテルパーティーで自己紹介 13:09-[33]

- ◇ A4用紙を4つに区切り、①ここ1ヶ月で嬉しかったこと、②ここ1ヶ月でがっかりしたこと、③第1回研修で学んだことの中で、現場で活かしてみたこと、④研修終了後の自分自身のイメージを、個人で書き出した。
- ◇ 会場を立ち歩いてペアを作り、書き出したことを基に自己紹介を行った。ペアを変え、時間内でできるだけたくさんの人と出会い、自己紹介を繰り返した。
- ◇ ファシリテーターコメント…スキルは、繰り返しトレーニングすることで身についていく。コミュニケーションも同じである。自己紹介を何度も行ううちに、伝えるスキルが磨かれ、他の人の自己紹介から伝え方、話し方を学ぶこともできる。
- ◇ 4～5人のグループになって着席し、カクテルパーティー形式で出会った人の中で印象に残っている人を紹介し合い、この会場にどのような人がいたのかを共有した。



4. 第1回ふりかえり 13:42-[24]

- ◇ 第1回研修の記録を各自読み、印象に残ったところ3つに下線を引いた。

- ◇ 印象に残ったところとその理由について、グループ内で伝え合った。
- ◇ ファシリテーターコメント…他の人と体験や学び、気づきを共有することで、1人だけでは得られない学びの広がりや深まりが生まれるのは、参加型の特長のひとつ。

● セッション2 「多様な他者・他国と肯定的に出会おう（柱1）」 7/9 14:06-16:25

1. グループ替え、カードで自己紹介 14:06-[33]

- ◇ ジャンケンで勝った人、負けた人が左右のグループに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ カード1枚につき1つのテーマが書かれた20枚のカードを使い、次の手順で自己紹介を行った。

<カードで自己紹介の手順>

- ① 20枚1セットを、各グループに配付。机の中央に裏向きに重ねて置く。
- ② 1人1枚カードを取り、自己紹介の内容を考える。
- ③ 1人ずつ順にテーマの発表と自己紹介を行う。(2分間×3ラウンド)
- ④ これまで使用したカードを机上に出し、他のメンバーが使用したカードの中から自分が話したいものを1枚選び、自己紹介を行う。
- ⑤ 机の中央に残っているカードから1枚を取り、そこに書かれたテーマをグループ共通のテーマとして自己紹介を行う。



- ◇ ファシリテーターから、コミュニケーションの3要素について説明した。

<コミュニケーションの3要素>

考える…自分を振り返る 伝える…相手に心を開く 聞く…相手を受け入れる

- ◇ ファシリテーターコメント…人は多面的にできている。様々な角度から知り合えば共通点・共感点が見つかり、相手への理解が深まる。自己紹介で自分を振り返ることで自己理解が進み、自己理解したことを他者に肯定的に受け入れてもらうと「自分のままでよい」という安心感が生まれ、自己肯定感が育まれる。コミュニケーションの3要素を行為として繰り返すことで、よい関係性を作り上げていく。コミュニケーションスキルは、生まれ持った力ではなく、誰もが練習すれば向上していくと言われている。

2. キリバスを知り、自分を語ろう！ 14:39-[41]

- ◇ 資料『キリバスを知り日本を語ろう』をグループに1枚配付。6つのカテゴリー（①毎日の食事、②普段来ている服、③住んでいる家、④学校、⑤気候、⑥性格や国民性）を1人1つ担当し、グループ内で読み上げて内容を共有した。
- ◇ カテゴリー①～⑤を1人1つ担当し、それぞれ日本について言えることをA4用紙に書き出した。⑥については共通項目として全員が書き出し、グループ内で発表し合った。
- ◇ 書き出したA4用紙一式を隣のグループに渡し、内容を共有した。
- ◇ 作業を振り返り、キリバスと日本のいいところを模造紙に対比表で書き出した。



【キリバスと日本のいいところ】

<キリバス>

- ◇ みんなでご飯を食べている
- ◇ 壁がない家に住んでいる→心の壁もない
- ◇ 歌と踊りが大好き ◇ 陽気だから幸せ度が高いだろう
- ◇ 学校で不合格でも編入できる
- ◇ 性別に関係なく同じ伝統服 ◇ 裸足でも安全
- ◇ 「持てるものから持たざるものへ」の精神
- ◇ 物がなくても助け合って生きている風習
- ◇ 建築材が自然に優しい ◇ 燃料が循環型
- ◇ 自給自足ができる ◇ 必要な分だけ食料を取る

<日本>

- ◇ 四季折々季節がある ◇ 食べ物の種類が豊富
- ◇ 和を大切にしている ◇ 多様な価値観がある
- ◇ 時間通りに物事が進む
- ◇ 教育の選択の幅がある
- ◇ 全国どこでも同じレベルの教育
- ◇ 情操教育がしっかりしている
- ◇ 勤勉・真面目 ◇ 嘘つかない
- ◇ 家が丈夫 ◇ 電化製品が充実
- ◇ トイレがとてきれいい

- ◇ ファシリテーターコメント…人の顔が思い浮かぶぐらいのつながりがあると、その国の課題を自分事として考えら

れるようになる。肯定的に出会う体験を繰り返すことで、「対立を解決できる私たち」になれると良い。

- 休憩 - 15:20-[11]

3. グループ替え、一言自己紹介 15:31-[10]

- ◇ ファシリテーターから、使用した資料『世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来』（愛知県国際交流協会発行）を紹介した。
- ◇ ジャンケンで勝った人、負けた人が前後のグループに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ これまでに行った自己紹介テーマの中から自分に合っていると思うものを各自選び、グループ内で自己紹介を行った。

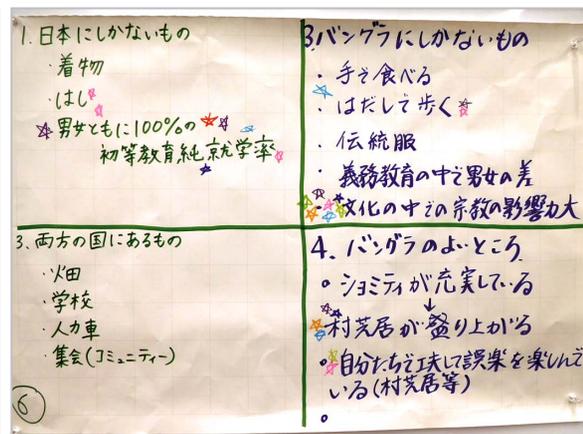
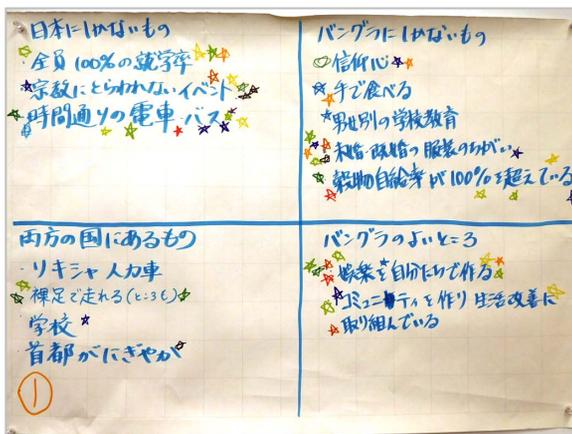
4. バングラデシュってどんな国！？ データと写真と解説で知るバングラデシュ 15:41-[44]

- ◇ 資料『データ比較 バングラと日本』を配付。バングラデシュと日本について、この資料で新しく知ったことに線を引きながら読み、グループ内で共有した。
- ◇ 資料『バングラデシュ写真8枚』を配付。それぞれどのような場面かを想像し、意見を出し合った。
- ◇ 写真の解説を配付し、バングラデシュの生活について確認した。
- ◇ 模造紙を4分割し、①日本にしかないもの、②バングラデシュにしかないもの、③両方の国にあるもの、④バングラデシュのよいところを書き出した。
- ◇ 模造紙を回し読み、共感したものに★印をつけた。



【「バングラデシュと日本」比較表成果例】

①日本にしかないもの	
◇四季 ◇100%の就学率 ◇男女共学 ◇塾 ◇宗教にとらわれないイベント ◇多様な食文化 ◇著物 ◇ほとんどの家庭に電化製品 ◇相撲 ◇天皇制 ◇時間通りの電車バス ◇地下鉄・新幹線・リニア ◇インフラ整備 ◇少子高齢化社会 ◇老人ホーム ◇社会保障	
②バングラデシュにしかないもの	
◇男女別・2部制の学校教育 ◇礼拝の呼びかけが流れる ◇信仰心 ◇文化の中での宗教の影響力大 ◇穀物自給率が100%超え ◇トルカリ（郷土料理） ◇未婚・既婚の服装の違い ◇村芝居 ◇裸足 ◇ショミティ（女性達の共同の寄り合い） ◇リキシャ	
③両方の国にあるもの	
◇米 ◇手で食べる習慣 ◇民族衣装 ◇人力車 ◇女子会 ◇都市のにぎわい ◇国旗に赤い●がある	
④バングラデシュのよいところ	
◇自然が豊か ◇環境に優しい（リキシャ） ◇好奇心旺盛 ◇熱心に勉強する子ども達 ◇子どもが元気 ◇穀物自給率 ◇衣服の文化が残っている ◇大家族 ◇家族の仲が良さそう ◇家・庭にゴミを落とさない ◇子どもがよく家の手伝いをする ◇若い人が多くてエネルギッシュ ◇人のつながり ◇娯楽（村芝居など）を自分達で作る、楽しんでいる ◇コミュニティを作り生活改善に取り組んでいる ◇女性の国会議員が多い ◇女性ががんばっている	



- ◇ 作業を振り返り、分かること・言えることをグループで話し合った。
- ◇ ファシリテーターコメント…ネガティブな情報やデータが多い国と肯定的に出会うには、普通の人々の暮らしや意外な一面を知ることが有効であり、ステレオタイプからの脱却につながる。肯定的に出会いながらも、その国の課題を一緒に考える人を育てていきたい。

● セッション3 「多様な中の心の同一性を見つけよう（柱2）」 7/9 16:25-17:07

1. グループ替え、一言自己紹介 16:25-[08]

- ◇ 会場を立ち歩き、参加者同士で属性等を紹介し合い、多様なメンバーになるようにグループを作った。
- ◇ 「私にとっての異文化体験」というテーマで、グループ内で自己紹介を行った。

2. わたしの当たり前=世界の当たり前!? 16:33-[26]

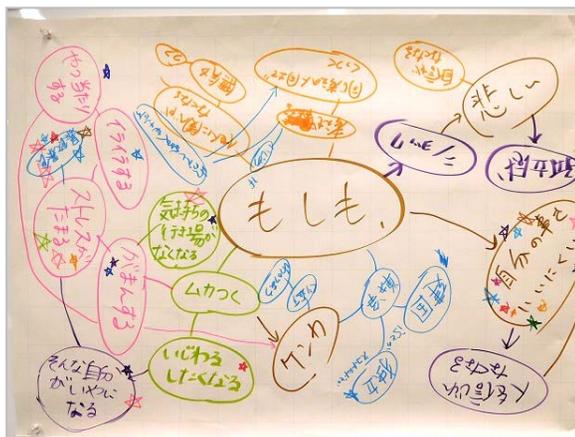
- ◇ 資料『わたしの当たり前=あなたの当たり前?』を配付。グループで分担して読み上げ、世界の異文化を知った。
- ◇ グループ内で資料に書かれた質問の答えを言い合い、日本人同士においても異文化があることを確認した。

〔 <質問内容>
 ①目玉焼きには何をかける? ② 家の味噌汁は何味噌? ③「自分の家ルール」ってある? など

- ◇ もしも、自分の大切にしていることを否定されたり、自分の家や国の習慣をバカにされたり、少数派というだけで差別をされたりしたらどんな気持ちになるか、派生的に意見を出し合い、模造紙に書き出した。
- ◇ 他グループの模造紙を自由に見て回る「ギャラリー方式」で意見を読み、共感したものに★印をつけた。
- ◇ 他グループの意見の中で、自分のグループでは出なかったもの2つを持ち帰り、模造紙に書き加えた。



【「もしも大切なものを否定されたら」成果例】



- ◇ ファシリテーターコメント…異文化体験とは、自分にとっての当たり前が当たり前ではないことに気づくこと。異文化の否定や少数派排除は憎悪を生み出してしまおうことを押さえ、違いを認め合うことを大切に、異文化理解、多文化共生の心を育めると良い。多様な文化の中で心の同一性を伝え合い、共通基盤を作っていこう。
- ◇ 「学びの柱2」のために有効なアクティビティ「言葉の宝箱・ゴミ箱」を、ファシリテーターから紹介した。

3. 1日目のふりかえり 16:59-[06]

- ◇ 1日目を振り返り、気づきや発見、感想を、グループの中で一言ずつ発表した。

4. 事務連絡 17:05-[02]

- ◇ JICA 推進員より、イベント告知を行った。
- ◇ JICA 中部 倉坪職員より、JICA 訪問プログラムの案内、教師海外研修受講者への事務連絡を行った。

★ 17:07 終了

● JICA TIME 7/10 10:00-10:20

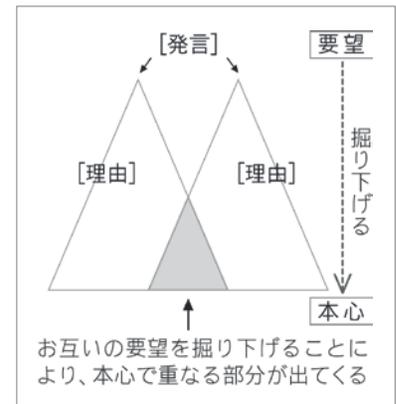
1. JICA TIME 10:00-[20]

◇ JICA 中部 倉坪職員が、2日目開始にあたっての挨拶を行った後、ODAについてスライドを使いレクチャーを行った。

● セッション4「自分、他者、世界、未来のつながりについて考えよう(柱3)」 7/10 10:20-11:50

1. 1日目のふりかえり、自己紹介 10:20-[20]

- ◇ ファシリテーターから、1日目の内容の振り返りと、第2回のねらいの確認を行った。
- ◇ グループ内で、①今の社会に関して変えたいと思っている事、②それが変わらなかったらどうなるか(変えたいと思う理由)、③どう変わると良いかというテーマで自己紹介を行い、メンバー間で共通点があったかを振り返った。
- ◇ ファシリテーターコメント…「変えたい事がある」ことが開発教育・国際理解教育の出発点。「変えたい事」は、私たちが関わっていくことでしか変えられない。共通点が見つかったら、共に変えていこうという意識につながる。
- ◇ ファシリテーターから、合意形成に役立つ「要望と本心の見極め」についてレクチャーした。
- ◇ ファシリテーターコメント…対立を乗り越え、合意形成に至るには、要望と本心を確認することが大切。自分の要望だけに固執していると、二項対立のまま進展しない。表面で言い合うのではなく、根底にある願いをお互いが掘り下げ、共通点を見つけることができれば、AでもBでもなくCという合意点を見つけることができるかもしれない。対立解決のプロセスを知り、肯定的に出会うスキルを身につけよう。



2. 今週お世話になったもの 10:40-[26]

- ◇ 今週1週間を振り返り、自分がお世話になったものをA4用紙に個人でリストアップした。
- ◇ ①どんな種類のものが多かったか、②海外とつながりのあるもの、③なくなったら困るものTOP3という3つの視点でリストを振り返り、分かったこと・気づいたことを文章化した。
- ◇ グループ内で発表し、私たちが分かったこと・気づいたことをグループで3つの文章にまとめ、一般化した。

【今週お世話になったものリストから気づいたこと・分かったこと】

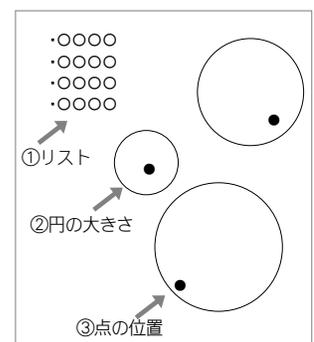
◇ 娯楽がないと生きていけない ◇ 便利な生活 ◇ なくてもいいものもある。でも使いたい
 ◇ 特別に海外を意識していなくても外国製製品に囲まれている ◇ 衣食住はたいへん必要
 ◇ 物や情報にとても頼っている ◇ 仕事に関わる物や人に支えられている ◇ お金より大切なものがたくさんある
 (人との絆など) ◇ 人が大切

3. 重層的コミュニティ分析 11:06-[21]

◇ 自分と社会との関わりを振り返り、次の手順で今現在属しているコミュニティを考えた。なお、ここでは、コミュニティを「同じものを共有している集まりまたは集団」と定義した。

<重層的コミュニティ分析の手順>

- ① 自分が今現在関わっているコミュニティを、A4用紙の左端にリストアップする。
- ② 自分にとっての、そのコミュニティ重要度を円の大ききで表し、同じA4用紙に書き出す。
- ③ そのコミュニティにおける自分の関わり度(立ち位置)を点の場所で表し、②で書いた円の中に書き加える。



- ◇ ファシリテーターから、今ここにいる全員が関わっているコミュニティは何かを問いかけ、「地球コミュニティ」であることを伝えた。
- ◇ 作業を振り返り、分かったこと・言えることを個人で文章化し、グループ内で発表し合った。

4. コミュニティの課題とわたし 11:27-[20]

- ◇ ここまでの作業をファシリテーターから説明し、振り返った。
- ◇ 全体を偶数グループと奇数グループに分け、それぞれ「そのコミュニティの課題解決に関わらないとどうなるか」「そのコミュニティの課題解決に主体的に関わるとどうなるか」というテーマで派生的に考え、模造紙に書き出した。
- ◇ 模造紙を回し読みし、共感した意見に★印をつけた。



【「コミュニティの課題解決に関わらないとどうなるか/主体的に関わるとどうなるか」成果例】

<p><関わらないとどうなるか></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 「誰かがやってくれる」精神・他人任せになる ◇ コミュニティが崩壊する ◇ 言いなりになる ◇ 意見を出そうとも思わなくなる・意見がなくなる ◇ 人間関係がどうでもよくなる ◇ 疎遠になる ◇ 知らないうちに自分の存在が薄くなる ◇ 偏った考えになる ◇ 自分中心になる ◇ 関わった人たちが苦勞する ◇ 諦める ◇ 立場が弱い人がより困る ◇ 楽しくない ◇ 情報がもらえなくなる ◇ 分からないことが分からない ◇ 変化が起こらない ◇ 独裁 	<p><主体的に関わるとどうなるか></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 自分事として考えるようになる ◇ 自分が成長する ◇ コミュニティがよりよくなる ◇ 組織が活発になる ◇ 責任感が生まれる ◇ アイデアが増える ◇ 仲間が増える ◇ コミュニティを大切に思える ◇ 自分に何ができるか考えるようになる ◇ 視野が広がる ◇ 他のコミュニティも肯定できる ◇ 協力し合える ◇ 新しいことに挑戦 ◇ 忙しくなる ◇ 家庭生活がおろそかになる ◇ 意見がぶつかる ◇ 解決したとき HAPPY ◇ 自分で考える ◇ 自分の殻を破る ◇ 難しいことも解決しやすくなる ◇ 発展
--	--

- ◇ ファシリテーターコメント…自分の行動がどう社会とつながるのかを具体的に分かっていけば、行動を変えていける。自ら考え、主体的に行動する1人ひとりを育てよう。

5. ふりかえり、感想の共有 11:47-[03]

- ◇ 午前中の感想をグループ内で伝え合った。

- 休憩 - 11:50-[57]

● セッション5 「課題を越えて共によりよい未来を創るためのスキルビルディング（柱4・柱5）」

7/10 12:47-15:06

1. グループ替え、開発教育・国際理解教育で育てたい3つの力 12:47-[06]

- ◇ ファシリテーターが番号を振り、指定のテーブルに移動してグループ替えを行った。
- ◇ ファシリテーターから、開発教育・国際理解教育で育てたい3つの力をレクチャーした。

<p><開発教育・国際理解教育で育てたい3つの力></p> <ul style="list-style-type: none"> ① わたしに関わる力…自己理解、自己肯定感、自己尊重 ② あなたに関わる力…コミュニケーション、他者理解、多様性受容 ③ みんなに関わる力…参加・協力、合意形成・対立解決、アドボカシー（社会的提言）

- ◇ グループ内で、「子どもの頃に好きだった思い出の絵本」とその理由で自己紹介を行った。

2. 『となりのまじよのマジョンナさん』 12:53-[17]

- ◇ ワークシート『マジョンナさんのまほうで…』を配付。スライドを使い、ファシリテーターが絵本『となりのまじよのマジョンナさん』の読み聞かせを行った。
- ◇ 途中で読み聞かせをいったん止め、物語の続きを個人で考えてワークシートに絵で描き、グループ内で発表し合った。
- ◇ 肯定的な対立の解決がこの絵本のテーマであることをファシリテーターから説明し、読み聞かせの続きを行った。読み終わった後、この絵本に込められたメッセージ「前向きな言葉がけ」「自己肯定感を持つことの大切さ」を伝えた。



3. 平和を創るわたしたち！対立の肯定的な解決方法を考える 13:10-[24]

- ◇ 資料『参加と対話とコミュニケーションスキル』を配付。「あなたメッセージ」をグループ内でシミュレーションした。
- ◇ 資料を基に、対立を激化させない気持ちの伝え方「わたしメッセージ」について、ファシリテーターから説明した。
- ◇ 担当するクラスで「先生、太郎君がいじめる」と子どもが言って来たらどう対応するか、ペアで話し合い、グループで共有した。
- ◇ 対応策について、次の点をファシリテーターから問いかけた。

・相手としっかりと対話する対応ができていたか	・相手からじっくりと話をしてもらっていたか
・相手の話をしっかりと聞けていたか	・提案を一緒に考えることができていたか
- ◇ ファシリテーターコメント…「対話」にはコミュニケーションの3要素が入っている。わたしメッセージで会話が続くパターンをイメージすると良い。自分がどう対応することが肯定的な対立の解決になるのかを体験し、具体的に考えていくことがスキルビルディングでは大切である。

4. 傾聴「わたしが主人公になれた経験」 13:34-[32]

- ◇ 自分を振り返り、これまでの人生で自分が主人公になれた経験を思い出し、傾聴を用いた次の手順で60秒メッセージを伝え合った。ペアを替えて3回行った。また、傾聴の前に、自分を開き、相手を受け入れる心の準備として、ファシリテーターから3つの呼吸法をレクチャーした。

<傾聴とは>
相手に心を寄り添わせ、全身で共感を表しながら聴く聞き方



- <60秒メッセージの手順>
- ① ペアになり、話し手と聞き手を決める。
 - ② 話し手が、自分の経験を60秒間のメッセージとして聞き手に伝える。聞き手は、メモを取ったり質問をしたりせず、傾聴する。
 - ③ 役割を交代し、同様に伝える。
 - ④ 3回目のペアでは、聞き手から話し手へ、聞いたことをそのまま相手に伝え返す「振り返し」をし、内容と意思疎通の確認を行った。

- <3つの呼吸法>
- ① 集中力を高める…2回吸って1回吐く。
 - ② 緊張感を和らげる…1回大きく吸って2回吐く。
 - ③ 深呼吸…10数えて吸い、10数えて吐く。

- ◇ 傾聴の感想を共有し、その効果や気持ちの変化を確認した。

【傾聴の感想】

- ◇笑顔でうなづいたり、反応が返ってきたりするとすごく嬉しい。気持ちよく話すことができた。
- ◇話し終わった後、「そうだよね」などの言葉が大事。共感したり相手に関心を持ったりしながら聞くことが大切。
- ◇普段の生活の中では、途中で口を挟まれることがある。60秒間ずっと自分の気持ちを言えると、最後まで聞いてもらえたと嬉しい気持ちになる。
- ◇振り返しがあると、相手に伝わるように意識して話す。聞き手も、相手のメッセージを受け取ることに集中するようになる。
- ◇傾聴でも距離感が大事。近すぎても緊張する。

- ◇ ファシリテーターコメント…対話を通してコミュニケーションに何が大切かを確認できれば、関わる人同士で共通した風土を持つことができる。スキルを育てる場をたくさん作れると良い。

5. 「自ら考え、行動する」主体性を育てるために大切なこと -----

5-1. 主体性を育てるために大切なこと 14:06-[22]

- ◇ 自ら考え、行動する主体性を育てるには何が大切か、グループで意見を出し合い、全体で共有した。

【主体性を育てるために大切なこと】

- ◇意欲・モチベーション
- ◇声に出してみる
- ◇認め合う場・安心感のある場・受け止めてもらえる場
- ◇自信
- ◇自己肯定感
- ◇仲間からのサポート
- ◇周りからの投資・応援
- ◇人に褒められるなどの報酬

- ◇役割を与えられる
- ◇興味関心を持つ
- ◇成功例・前例を知る
- ◇課題に気付く
- ◇目標がある
- ◇できること・できそうなこと
- ◇教えない
- ◇いい声掛け
- ◇君にしかできないと思わせる、伝える
- ◇困っている人を助ける
- ◇人のためになる・感謝される
- ◇大切な人がいる
- ◇選択肢がある
- ◇どんどん結果が出てきたとき
- ◇うっかり真ん中にいたとき
- ◇せっぱ詰まる
- ◇プレッシャーがあるとき
- ◇自分で考えないと何も変わらないと気づいたとき
- ◇自分が楽しいと思ったことに人を巻き込みたいとき
- ◇現実逃避したいとき

5-2. 主体性を育むファシリテーションに必要なこと 14:28-[09]

- ◇ A4用紙を8分割し、主体性を育むファシリテーションに必要な行動を個人で書き出し、グループ内で共有した。行動は、「～しない」という否定の言葉は使わず、肯定的な言葉を使った。
- ◇ ワークショップを提供するにあたり、NIEDが大切にしている「3つの信じる力…①参加者を信じる、②参加型の力を信じる、③自分を信じる」を伝えた。
- ◇ファシリテーターコメント…実践では、教えるのではなく引き出すことを大切にしたい。スキルを育む教育であることを念頭に、今書き出した8個の行動をもって実践してもらえたらと思う。

6. ファシリテーターの心得と宣言 14:37-[19]

- ◇ 資料『ファシリテーターの心得』を配付。グループ内で分担して読み上げ、ファシリテーターとしての心得を共有した。
- ◇ 私らしいファシリテーター像を各自考え、A4用紙に個人で書き出した。
- ◇ グループ内で1人ずつ宣言をし、発表者の右隣の人が応援メッセージ（エール）を送った。
- ◇ ファシリテーターコメント…どんなファシリテーターになりたいか、答えは自分の中にある。「こんなファシリテーターになりたい」と思ったら必ずなれる。私たちには、変えていける力がある。

7. ふりかえり 14:56-[04]

- ◇ 第2回研修で学んだことを、グループ内で1人ずつ発表した。

8. 事務連絡 15:00-[06]

- ◇ JICA 中部 倉坪職員から、JICA 訪問プログラムについて連絡した。
- ◇ 事務局から、第3回研修宿泊、メーリングリストの確認、第3回での教師海外研修からの報告について連絡した。
- ◇ 受講者から、愛知国際理解教育勉強会の活動紹介を行った。

★ 15:06 終了

— 研修で使用した教材の出典等一覧 —

- ・『キリバスを知り、自分（日本）を物語ろう！』…愛知県国際交流協会「世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来 キリバス共和国編」
- ・『データ比較 バングラデシュと日本』…各国統計局/United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division. World Population Prospects: The2015 Revision./外務省/世界銀行/ユニセフ世界子供白 2015/World Population Prospects 5/世界保健機関(WHO)/国際エネルギー機関/米エネルギー省/農林水産省/FAO [Food Balance Sheets] /国際電気通信連合(ITU) /列国議会同盟(IPU)
- ・『バングラデシュの生活—写真解説』…(特活) 開発教育協会「貧困と開発—豊かさへのエンパワーメント」2005年(絶版)
- ・『わたしの当たり前—あなたの当たり前?』…国際理解教育教材「世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来」活用マニュアル Ver.2
- ・『マジヨンナさんのまほうで…』…ノーマンブリッドウェル 著(長月るり訳・長野ヒデ子絵)「となりのまじょのマジヨンナさん」偕成社
- ・『参加と対話とコミュニケーションスキル』…NIED
- ・『ファシリテーターの心得』●ファシリテーター8カ条…中野民夫著「ファシリテーション革命 参加型の場づくりの技法」岩波書店

※NIED…特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター